

合言葉は

- ①ぼちぼち
- ②そこそこ
- ③できるしこ

第5夜
9月29日

「インターン」でNPOから学ぶ

全8回のスタートアップも折り返し地点。第5夜は大学生の三浦穂乃佳さん（北九州市立大学4年）、竹本智尋さん（福岡女子大学1年）のお二人をお迎えして、NPO にインターンとして参加したきっかけや、印象に残ったこと、意外だったことなどを永田賢介（認定NPO 法人アカツキ理事・職員）がお聞きしました。

やってみたいこと・テーマで選んで参加

大学の実習の一環でNPO 法人I-DO に約3年関わり、その後もアルバイトとして続けている三浦さん。自身の地元で貢献したいという思いから、なにか持って帰れるものをと「公共交通」に関わる団体を選んだそうです。また、「時間が余っているとついダラダラしてしまうので、先に予定を埋めたくて」と夏休みの2カ月間アカツキのインターンに参加した竹本さんは「コンサルティング」という業態を見て、多くの人に会って話したいという目的が果たせるのではと期待したようです。



三浦穂乃佳

怒るだけでなくアドバイスをもらえるとうれしい」（三浦さん）、「断りにくい雰囲気はイヤ、選択肢を出してもらえたのは有り難かった」（竹本さん）。また二人とも「ランチなど雑談をする時間がよかった」そうで、オンラインが増える中で、そうした時間をどのようにつくるかも大事ななと感じました。

自身の学生時代のことを思い出した参加者もいらっしやうったようで、コメントもたくさんいただきながらの和やかな時間でした。
（白神 加奈子：アカツキ職員）



竹本智尋

感じたこと、学んだこと、意外だったこと

三浦さんは活動を通じて行政や企業の人と関わる中で「スケジュール管理や言葉遣いなど当たり前に見えることが、実は大切」と感じ、竹本さんは就職に不安を抱く中「社会保険や税金など社会の仕組みを学ぶことが出来た」、NPO への関わり方は、本業以外にも兼業やボランティアなど様々であることに驚いたことを話してくださいました。

こんな受入団体はイヤだ、これはうれしい

インターンを受け入れる団体にアドバイスとするとしたら？という質問には、「褒められると伸びるタイプなので(笑)

参加者の目！



竹本さんはアカツキインターンの後輩、三浦さんは他学部ですが大学の後輩で、かつI-DO さんには大学時代に私もお世話になりましたので、お話を聞いていて懐かしく思いました。

人を育てることをコストと捉える向きにある現代社会で、インターンを受け入れることはNPO 団体にとって大きいことかもしれません。しかし、共に課題解決を行う仲間として関わりあえる余地が非営利にはあるはずなので、そういう視点を忘れたくないなと思いました。

（田中沙知 アカツキ元インターン）



〔ご寄付のお願い〕本事業は、完全に自主財源のみで行なっています。QR コードからご寄付いただくとありがたいです。

